

第17回《なかしんふるさと賞》

贈呈式



と き

平成27年10月21日（水曜日）
午前10時30分より

ところ

「三田ホテル」三田市けやき台1-11

第17回 《なかしん ふるさと賞》 贈呈式

1 部 式 典

■ 式次第

1. 開会の辞
2. 理事長挨拶
3. ふるさと賞の趣旨・選考経緯の説明
4. 表彰
5. 祝電披露
6. 閉会の辞

※ 写真撮影

2 部 披 露 の 宴

1. 開宴挨拶
2. 受賞者代表挨拶
3. 乾杯

開 宴

ごあいさつ

秋たけなわの候、皆さまにおかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援、ご愛顧を賜りまして誠にありがとうございます。

このたび、当金庫の営業地域でお仕事や社会活動を通じてご活躍されている方々に第17回目の「なかしんふるさと賞」を贈らせていただき、広くご紹介させていただくことと致しました。

受賞されました方々に心よりお祝いとお慶びを申し上げ、益々ご活躍されますことをお祈り致します。

中兵庫信用金庫

理事長

足立厚郎



《なかしんふるさと賞》 ご受賞者名 (敬称略・順不同)

1. 商工業部門

該当店舗名	お名前	ご住所	ご功績
篠山	株式会社清明堂	篠山市	安政2年(1855年)の創業以来、家伝の味を今に受け継いで百有余年、和菓子一筋に丹精込めてつくり続けておられます。昔ながらの製法や地元の素材にこだわり、地元特産の丹波栗や黒大豆、山の芋といった食材を使った和菓子は気品ある風趣豊かな味が評判で長年愛され続けています。大阪市内の百貨店にも出店され、地元の情報発信や知名度アップにも寄与されています。
石生	細見鉄工株式会社	丹波市	昭和28年の創業以来、「常にお客様第一主義」を企業理念に掲げ、試作から精密板金すべてを一貫生産する工場として、地球環境にやさしいものづくりを目指されています。また、企業理念に沿って「心技を尽くしたものづくりをすること」を第一に、お客様に信頼され満足していただける製品を提供されています。現状に満足することなく、常に技能の研鑽に努めるとともに、職場環境の安全性向上にも努めておられます。
谷川	株式会社 村上社寺工芸社	丹波市	昭和58年に法人設立され、日本に古来から伝わる国の選定保存技術に指定されている檜皮葺、柿葺・茅葺の植物性屋根を主に施工されています。最近では伊勢神宮や出雲大社の屋根も手掛けられました。熟練した伝統の技を駆使し、華麗優美に屋根を葺きあげることを使命とされています。また、国宝や重要文化財の保存と活用に貢献されており、伝統技術を承継する人材の育成にも尽力されています。
谷川	まさる針本舗 (横山優)	丹波市	昭和31年より、60年近く伝統的工芸品「播州毛鉤」の製造に従事され、平成3年には経済産業大臣認定資格の伝統工芸士の認定を受けられました。「播州毛鉤」は100年以上の伝統と歴史があり、水生昆虫を模した工芸品で、わずか1cm足らずの鉤に数種類の鳥の羽根を絹糸で巻き付けて仕上げます。繊細で精巧な技術が要求される工芸品であり、伝統工芸技術の伝承にも力を注がれています。
西脇	株式会社丸萬	西脇市	明治34年ジャガード織機400台を有し事業を始められ、昭和22年から現在の産元業務を行われています。その後は、浜松事務所や大阪支店、東京ショールームを開設するなど高級先染め織物である「播州織」の普及に尽力され、また、出張授業により地元高校生と交流を図るなど、播州織発展のための活動もされています。歴史ある地場産元であり、常に織物の価値を高めるものづくりに取組んでおられます。
西宮北	株式会社川上商店	神戸市	室町時代後期の創業以来、有馬の名産「有馬山椒」を使った佃煮をはじめ数々の商品は昔ながらの製造方法をかたくなに守りつくり続けておられます。じっくり時間をかけて炊き上げることにより、素材のうまみを極限まで引き出しています。有馬温泉周辺で採れる山椒は「有馬山椒」として全国的にも知られる名品で、山椒の花の佃煮「花山椒」は山菜佃煮の芸術品とも絶賛されています。

2. 伝統工芸・文化部門

該当店舗名	お名前	ご住所	ご功績
青垣	太田 檜雲堂 (太田 嘉久)	丹波市	昭和62年、家業の表具店を4代目として継承されました。若い頃から県表具内装組合連合に加入し技術を磨かれ、古い襖絵、軸などの修復や寺の天井絵など特殊なものを主に手掛けられています。また、一般住宅の襖の製造及び張替えなども同一線上ととらえ、分け隔てなく取組んでおられます。表具師としての卓越した技能が評価され、平成27年度「ひょうごの匠」の認定を受けられました。
市島	市島町史実研究会	丹波市	郷土史の研究や古文書の解読作業を含め、史実を後世に伝えることを目的に昭和41年に創立されました。創立当初から次世代に史実を繋ぐことの重要性から継続的に活動され、冊子「いちじま史研」は第59号まで発刊されております。講演会や郷土史研究、文化財の研究・保全活動への協力など幅広く活動されており、歴史をつないでいくことによって、郷土愛と地域力を高めることに貢献しておられます。

3. ボランティア部門

該当店舗名	お名前	ご住所	ご功績
青垣	足立 悦子	丹波市	昭和56年に町内の高齢者宅に給食を届ける活動に加わって以来、定期的な食事会や交流サロン「栗の実会」の運営など、地域での多彩なボランティア活動に打ち込んでこられました。青垣町ボランティア連絡会（現丹波市ボランティア協会青垣支部）の会長などを歴任され、現在も高齢者の手芸教室で講師を務めるなど地域の方とのつながりを大切にされています。平成27年度緑綬褒章を受章されました。
三田中央	外出 介助 ボランティア 「かけはし」	三田市	平成7年の設立以来、外出が困難な高齢者や障がいのある人が、各種施設の行事などに積極的に参加し、交流を深めることができることを目的に外出介助ボランティアを行ない、住みよいまちづくりに貢献されています。また、市内の地域団体・学校・企業などの研修会や講座に出向き、外出介助の講話や車椅子体験実技といった福祉体験学習のサポートも行っておられます。
三木	手話サークル 「みき」	三木市	手話を言語とされる聴覚障がいの方との交流を目的に昭和53年に結成されました。聴覚障がいの方と心の和をはかり、その和を更に一般社会へと広げていくため、お互い励まし理解し合い活動されています。また、聴覚障がいの方の社会参加の機会づくりや小学校等を訪問し手話教室を開催したり、三木市の「手話奉仕員養成講座」の講師を務めるなど幅広く活動されています。